

お腹が痛いのですが

宮城利府掖済会病院

内科部長 麦倉正敏

お腹が痛い、即ち腹痛の症状は消化器科の外来ではもちろん、一般内科の外来でも発熱や咳などと同じかそれ以上に頻度の多い症状です。

そして最もありふれた症状であるだけに診断に苦慮するケースもあり、診察する医師を悩ませるのがこの腹痛でもあります。

たまに「胃が痛いのですが」と言って外来を受診される患者さんがいますが、私は「みぞおちが痛いのですか？」と聞き返すようにしています。

この場合、みぞおちが痛くなる原因は胃の病気以外にもたくさんあること、また症状や経過から胃潰瘍などの病気が疑われたとしても最終的には胃内視鏡などの検査をしなければ診断がつかないからです。

お腹と言っても場所の範囲は非常に広く、左上腹部、右下腹部、左右側腹部、さらには心窩部（みぞおち）、左右肋骨下の左季肋部、右季肋部、へそ周囲などに分けられます。

痛みの部位と原因となる病気や臓器の位置は必ずしも一致しません。

急性虫垂炎（いわゆる盲腸）の発症初期はみぞおちの痛みで始まることもあり、時間の経過とともに痛みは右下腹部へ移動していきます。

また胆石による痛みは右季肋部が多いですが、右肩や背中が痛くなることもあり放散痛と呼ばれています。

お腹が痛い場合、患者さんにはいつから痛くなったのか、痛みの場所、痛みの性状（鈍い痛みか鋭い痛みか、持続性か間欠性か）、どのような時に痛くなるか（食後、空腹時など）などの点に注意して欲しいと思います。

以下、家庭の医学書などによく記載されているような腹痛を起こす頻度の高い病気について簡単に記述します。

- ・胃潰瘍

食後にみぞおちにしくしくするような痛みがある。

- ・十二指腸潰瘍

空腹時にみぞおちにしくしくするような痛みがあり、食事をする と痛みが軽減することがある。

さらに海苔の佃煮のような黒い便が出たり、コーヒー残さ様の黒色物を吐いたら潰瘍からの出血が疑われる。

また、胃十二指腸潰瘍の経過中、みぞおちから上腹部全体の激しい痛みがあり、お

腹の筋肉が板のように固くなっている場合は潰瘍による消化管穿孔（胃壁、十二指腸壁に穴が開くこと）を疑う。

- **胃アニサキス症**

イカ、サバ、タラなどの刺身やお寿司を食べた後、上腹部に激しい痛みと吐き気がある。アニサキスは寄生虫である。

- **胆石の疝痛**

食事をした後、右季肋部の周期的な痛みがあり、右肩や背中への痛みやコリも伴うことがある。

さらに発熱や黄疸もあれば急性胆嚢炎、胆道感染症、総胆管結石なども疑う。

- **急性膵炎**

脂肪の多い食事や大量飲酒後、または胆石を指摘されている人など、みぞおちから左季肋部にかけて持続性の強い痛み、また背中へ刺すような痛みや吐き気、嘔吐などがあり、膝を曲げて腹ばいになると（胸膝位）痛みが軽減することがある。

- **急性虫垂炎**

上腹部やへその周りから痛みが出現し、発熱や吐き気、嘔吐などの症状も出現、次第に痛みは右下腹部へ移動し、その場所を手で押して離すと痛みが強くなる（ブルンベルグ徴候）。

- **大腸憩室炎**

憩室が多発する部位（上行結腸、下行結腸、S状結腸など）により左右の下腹部痛があり、発熱を伴うことがある。盲腸の憩室炎は急性虫垂炎との鑑別が必要である。

- **虚血性大腸炎**

高齢者に多く、糖尿病、高血圧などの持病あり、突然の下腹部痛（左が多い）が出現し、その後血便、下血を認めることがある。

- **腸閉塞**

数日前より排便、排ガスがなく、腹部は膨隆し腹痛が持続、時に便臭のする吐物を嘔吐することがある。

他にもまだまだたくさんありますが上記のものはすべてわかりやすい典型例で、実際の臨床の場でこのような典型例を目にする機会はむしろ少ないと言えるでしょう。

もちろん、このような病気が疑われた場合でも他の病気の可能性を否定することはできません。

確定診断のためには十分な診察の後に腹部レントゲン、腹部CT（必要により造影）、腹部エコー、胃大腸内視鏡、血液検査など詳細な検査が必要です。

また腹痛をきたす病気は胃腸など消化器系の病気だけではなくありません。

私自身も診療経験があるのですが、心筋梗塞が胸痛ではなく上腹部痛の症状で発症することがあります。

私の例は心電図で変化を認めたために診断することができましたが、診断や治療が遅れば命取りになることもあります。

同様に緊急性のあるものとして腹部大動脈瘤の破裂など、突然の下腹部痛、出血によるショック症状などを認めることがあります。早急に診断し緊急手術のできる血管外科の病院へ搬送する必要があります。

その他、下腹部痛をきたす病気として尿路結石など泌尿器科の病気、女性では子宮外妊娠、骨盤内感染症、卵巣嚢腫捻転など婦人科領域の病気もありますが、原因がわからないまま内科など他の診療科を受診していることもよくあります。

以上、急性の腹痛をきたす代表的な病気について書きましたが、腹痛をきたす原因や病気は非常に多く、初回の診察だけでは診断がつかないことも多いです。

またいろいろな検査をしても特に異常が見つからず、気がついたら腹痛が消失していたなどと原因不明の一過性の症状のこともよくあります。

あれこれ心配していてもあまり意味はありません。

腹痛に限ったことではありませんが、とにかく早く病院を受診することが大切です。

宮城利府掖済会病院

〒981-0103

宮城県宮城郡利府町森郷字新太子堂 51 番地

TEL:022(767)2151

FAX:022(767)2156

URL:<http://rifuekisaikai.com/>